

令和4年8月7日

■モンゴル帝国

④中央アジアの遊牧騎馬民族の生活

- ・遊牧と牧畜…どこが違う？
- ・移動…なぜ必要か？
- ・家族形態…核家族／大家族 どっち？

③中国大陸の王朝

- ・歴代王朝の半数は遊牧民族が中原に侵入して建国した王朝である

①チンギス・ハン（1162 - 1227）

- ・チンギス・ハン…「蒼き狼」…どんな色？
「上天（タカマノハラ）より命（ミコト）ありて生れたる蒼き狼ありき。その妻なる
惨白（なまじろ）き牝鹿ありき」（『元朝秘史』那珂通世訳、明治40年）
- ・井上靖『蒼き狼』…チンギス・ハンは「出生の秘密」に悩んだか？
- ・「モンゴル人は女を尊重する」…この命題は○か×か？
- ・「源義経＝チンギス・ハン説」はどこがおかしいか？

○モンゴル帝国

- ・1206 モンゴル部族の長であったテムジン→モンゴル高原の部族長の大集会で最高指導者
者に選ばれ、チンギス・ハンの称号を与えられて、モンゴル帝国を建国
- ・歴史上最大の版図を持つ帝国を築き、世界人口の過半数を統治下に

■元の日本征服計画

⑦フビライの国書（1268年）

【問題】あなたが北条時宗ならどう対応しますか。次の3つの中から選んで下さい。また、その理由も考えて下さい。

- ア) 返事を出して受け入れる
- イ) 返事を出して断る
- ウ) 返事を出さない

■二度にわたる元の襲来

○文永の役（1274 年）

- ・ 対馬・宗助国のたたかい

○弘安の役（1281 年）

- ・ 次の蒙古襲来に備えて、時宗と鎌倉幕府はどんな対策を考えただろうか。

- ・ 竹崎季長のたたかい

○元寇における日本の勝因は何だったのか

- 1) 鎌倉武士の奮戦
- 2) いわゆる「神風」
- 3) 元が騎兵戦を戦えなかった

○元寇が後世に残した 3 つの教訓

- 1) 日本人の「国家意識」を育てる
 - 2) 残虐行為の被害が民族の記憶に刻まれた
 - 3) 脅威は朝鮮半島からやってくる、という認識
- ③元寇が変えた朝鮮半島の見方

元寇と朝鮮半島

⑤元軍の日本占領を阻止した武士たち

1274（文永11）年、3万人あまりの元の大軍が対馬にあらわれたとき、これをむかえ撃ったのは、宗助国にひきいられた80余騎の武士でした。助国を先頭に武士たちは元軍の中に飛び込み、奮戦したのち全員討ち死にしました。

元軍が博多湾に侵入してくると、日本の武士は命を惜しまず勇敢に戦いました。元軍は、夕暮れがせまると湾内の船に引きあげ、翌朝には撤退していきました。

1281（弘安4）年、2度目に襲来したときの元軍は、朝鮮半島からの軍勢と中国大陸からの軍勢を合わせて14万人の大軍でした。中国大陸からの軍勢は、武器のほかに、農具や生活用品まで軍船に積み込んでいました。九州の一部を占領し、そこに定住するつもりだったのです。

元軍の軍船は平戸（長崎県）に集結し、博多湾をめざして、伊万里湾（佐賀県）入り口の鷹島という島に到達します。

これに対して武士たちは、全力をあげて、船で元軍の大船団に戦いをいどみました。一昼夜におよんだ鷹島沖での海戦で、元軍の被害は大きく、船団は鷹島周辺の海にくぎ付けとなりました。しかもこの直後、台風が元軍をおそい、元軍の軍船はたがいに衝突して破損し、船団の大部分が荒波にのみこまれてしまいました。

こうして、2度にわたって襲来した元軍は、ついに日本を占領することができませんでした。

⑥朝鮮半島に対する見方を変えさせた元寇

最初の元寇で元軍は、対馬・壱岐や博多で、民家に火をかけ、飛び出してきた人を、老人、女性、子供の区別なく残忍な仕方です。殺害したり、捕虜として連れ去ったりしました。

今日でも壱岐には「ムクリコクリ」という言葉があります。ムクリとはモンゴル兵、コクリとは高麗兵のことです。親は泣く子を黙らせるとき、「泣いているとムクリコクリが来るぞ」と言います。

古代から朝鮮半島は、そこを通じて大陸の文化が日本に入ってくる大切な架け橋でした。しかし、朝鮮半島から大軍が襲来した元寇の恐怖の体験は、日本人の朝鮮半島に対するイメージを変えました。のちの明治時代に、政府は「朝鮮半島がロシアの勢力圏に入ると日本の安全が脅かされる」と警戒心を抱きました。そこには、元寇の体験が影を落としていたのかもしれませんが。

大人が学ぶ <誇りを持てる日本の歴史> 学習会 ワークシート
【10限目】 戦国大名

p 92 - 93

令和4年8月7日

■戦国大名の出現

○次の文章は、黒澤明監督の映画「七人の侍」(1956 年)の紹介文です。歴史的事実として間違っているところはどこでしょうか。

《時は戦国時代。戦国武将たちが天下統一を狙う最中、百姓たちは苦しい生活を強いられていました。夜盗と化した野武士たちが、村に度々襲撃にやって来ては、あらゆるものを奪い去って行きます。武器を持たない百姓たちは、このまま野武士たちの言いなりになるのか？ それとも、戦うのか？ 百姓たちは苦肉の策として、用心棒を雇うことを決断します。果たして、集まった用心棒、七人の侍たちは、村を救うことができるのか？》

○一揆と合議の伝統 (p 99)

- ・惣村は、村同士の境界争いを調停し、外敵を守ってくれるより強い実力者を求めた
- ・一揆で連想するのは簗旗の百姓一揆(江戸時代)：階級闘争史観の影響
- ・一揆とは「揆を一にする」こと(気持ちをひとつにすること)＝人々が共通の目的のために寄合を持ち、立場の違いを超えて平等な資格で一致団結すること
- ・一揆は中世・近世の社会集団の基本的な在り方だった。〔一揆システム〕
- ・「一味神水」(中世)：団結を神仏に誓うため、行動の趣旨を書いた紙を焼いて水に混ぜ、是認で回し飲みする儀式
- ・鎌倉幕府は御成敗式目に基づき評定会議を設置 評定衆は一致団結して公平な裁判を行うことを人物に誓う(一揆の結成)
- ・一揆の決定方式は「合議」と「満場一致」
- ・一揆は、百姓、農民に限らず、武士、僧侶、職人など中世・近世の社会集団の基本的な在り方だった。〔一揆システム〕
- ・さまざまな一揆…徳政一揆、土一揆、山城国一揆、一向一揆、百姓一揆

○室町時代の守護大名と戦国大名はどこがちがうのでしょうか。

・守護大名…

・戦国大名…

○戦国時代はいつからいつまでか

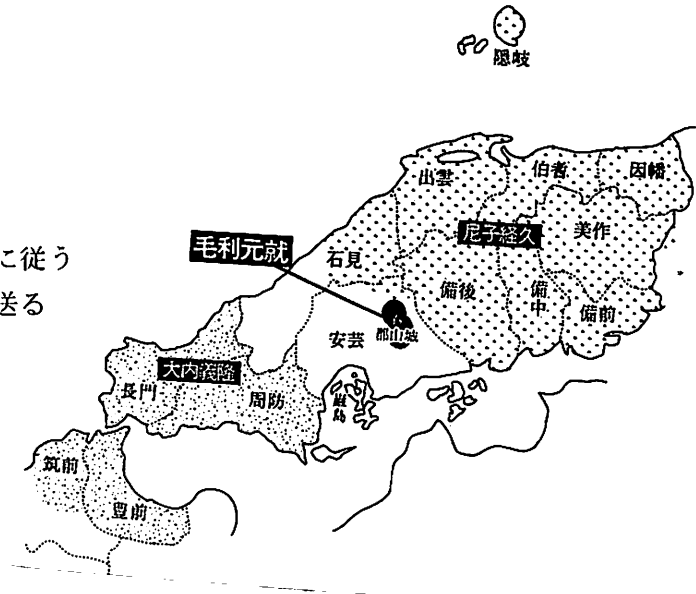
○戦国大名の出自

- ・守護大名から・・・武田信玄（甲斐）
- ・守護代から・・・上杉謙信（越後）
- ・国人から・・・毛利元就（安芸）

○下剋上

＜毛利元就の場合＞

- 1497 毛利弘元の次男として生まれる
- 1517 初陣で勝利
- 1523 毛利家を継ぐ
- 1525 尼子との同盟を解消、大内義興に従う
- 1537 長男隆元を人質として大内氏に送る
- 1546 家督を隆元に譲る
- 1555 厳島合戦で陶晴賢に勝つ
- 1562 出雲に出兵、尼子の本城を包囲
- 1566 尼子義久兄弟、毛利軍に降伏
- 1571 75歳で死去



■城下町と領国経営

＜都市の形成＞

○城下町

- ・開発によって豊かになると、農村から家臣団を集め、いつでも動員出来るように集住させた。家臣団の需要を満たすため、商工業が発達し、町が出来た。これが城下町である。
- ・小田原（北条）、府中（今川）、一乗谷（朝倉）、山口（大内）、鹿児島（島津）

○寺内町

- ・吉崎（越前）、石山（摂津）、富田林（河内）、山科（山城）

○門前町

- ・長野（善光寺）、坂本（延暦寺）、宇治・山田（伊勢神宮）

○港町

- ・十三湊（蝦夷地交易）、兵庫（大輪田泊）、草戸千軒町

○自由都市

- ・堺（会合衆）、博多（年行司）

<戦国大名の政策>

○治水事業

- ・信玄堤（武田信玄）、貞山堀（伊達政宗）、荒川堰（北条氏房）、太閤堤（豊臣秀吉）

○差出見地（自己申告制）、貫高制（貨幣で表現）、軍役（ぐんやく）

○鉱山開発

- ・石見銀山

<分国法の制定>

次の選択肢のうち、戦国大名の分国法に当てはまるものを選んで下さい。

- (1) ア) 人事は家柄が大切である。
イ) 人事は家柄よりも能力・実績が大切である。
- (2) ア) 武術を磨くことが大切で、学問などは必要ない。
イ) 戦いの世の武士といえども、学問は大切である。
- (3) ア) 武士にとっても神や仏を祈ることを大切にしなければならない。
イ) 神や仏に頼ることは、武士として恥ずべきことである。
- (4) ア) 勝つことがすべてであり、「義」「信」「礼」などは不要である。
イ) 戦いの世といえども、「義」「信」「礼」は大切である。

<北条氏の場合（ケーススタディ）>

*松沢成文『北条五代、奇跡の100年－民と歩んだ戦国の夢』ワニブックス PLUS 新書

初代 北条早雲
二代 北条氏綱
三代 北条氏康
四代 北条氏政
五代 北条氏直